

6. 維持管理

沖ノ鳥島におけるサンゴ産卵ファームの維持管理は、本島から遠く作業期間が限られていることや施工面積の広さを考慮し、必要最低限の対応を行うことを基本方針とし、原則として定期的な維持管理は行わず、サンゴの生残や成長状況などをモニタリングする。サンゴ被度の著しい低下が確認された場合には、人為的な駆除や再放流などの対策を検討・実施する。

【解説】

沖ノ鳥島は本島から遠く、年間に実施できる作業期間が限られている。そのため、定期的な維持管理作業ではなく、モニタリング結果をもとに必要最低限の維持管理を行うこととなる。

移植サンゴの生残、成長状況に関するモニタリング項目を表Ⅲ.6-1に示す。サンゴ産卵ファームは、1haにも及ぶ大規模な施設のため、全域を対象とした詳細な育成管理の実施が難しい。したがって、原則として定期的な維持管理は行わず、表Ⅲ.6-1に示したモニタリング結果により、以下の要対応事項が明らかとなった場合には必要最低限な対応を行う。

- ・ オニヒトデ等の食害生物が大量に確認された際には、人為的な駆除対策を検討する。
- ・ サンゴ被度が計画よりも大きく低下したエリアが確認された際には、その要因を検討、対策を立案する。必要に応じて再度幼生供給基地の親サンゴを用いて再放流を実施する。
- ・ 人工基盤を用いている場合は、人工基盤の安定性についても確認し、適宜補修作業を行う。

表Ⅲ.6-1 サンゴの生残、成長状況に関するモニタリング項目（サンゴ産卵ファーム）

項目・内容		方法
① 生存・死亡状態の観察（群体の生残状況の把握）		
a. 生存	群体全体が生存している	目視観察
b. 部分死亡	群体のうち、一部分が生存している（観察時に可能な範囲でその程度を把握することが望ましい。）	
c. 全部分死亡	白化して骨格のみ、骨格が消失	
d. 天然加入	幼生放流で用いたサンゴ以外のサンゴ種の加入状況	
② 群体サイズの計測（成長量の把握）		
a. 短径、長径、高さ	生きた部分の長さ	現地計測
③ 育成状態の観察（群体の健全度の把握）		
a. 健全	正常な外観色、粘液なし、触手を伸長	目視観察
b. 弱っている	外観色が薄い、粘液あり、群体の一部に藻類の付着あり	
c. 死亡	*①生存・死亡状態の死亡と同じ	
④ 食害状況の観察（食害防止ネットの効果の確認）		
a. 魚類	骨格が齧られた、折られた痕跡	目視観察
b. 貝類	共肉部が消失した痕跡、周辺に貝類確認	
c. ヒトデ類	同上	
⑤ 藻類の被覆状況の観察（競合生物からの保護対策の検討）		
a. 被覆なし	藻類被覆なし	目視観察
b. 部分被覆	一部分が被覆されている（観察時に可能な範囲でその程度を把握することが望ましい。）	
c. 全部分被覆	全被覆	